

ナショナルバイオリソースプロジェクト「カタユウレイボヤ等リソース拠点形成」

第2回運営委員会議事録 2008年7月25日（金）

1. 日時 2008年7月25日（金） 15:00～17:30

2. 場所 京都大学理学2号館 316室

3. 出席者

野中 勝（運営委員長：東京大学）、星 元紀（運営委員：放送大学）、西駕秀俊（運営委員：首都大学東京）、長濱嘉孝（運営委員：基礎生物学研究所）

山崎由紀子（NBRP・遺伝学研究所）

佐藤矩行・平山和子（京都大学）、稲葉一男・笹倉靖徳（筑波大学）、

赤坂甲治・吉田 学（東京大学）

4. 報告

1) 平成19年度の活動報告

中核拠点・京都大学、サブ拠点・筑波大学および東京大学のそれぞれから、「平成19年度成果報告書」記載内容を中心に平成19年度の活動が報告された。京都大学での「純系の確立」を除いて、それぞれの拠点でほぼ年度当初の目標を達成する収集・保持・提供がなされたことが報告された。

2) 平成20年度の活動計画

平成19年度の活動実績をもとに、各拠点における平成20年度の活動計画が報告された。

5. 議事

1) これまでの活動とこれからの活動について

本プロジェクトの問題点・改善点について、さまざまな角度から自由に議論した。

(a)「純系の確立」：現在京都大学で進めているが、F3世代で一つの壁にぶつかり、ここをクリアすることが一つの問題であることが報告された。これを受けて、星委員から、純系の確立は本業務の中でも重要なものなので、ぜひ確立の努力を続けてほしいという強い要望が出された。今後、京都大学のみでなく、筑波大学・東京大学も協力してこの事業に取り組むこと、具体的な計画については、3拠点でさらなる話し合いをもつことが確認された。

(b)本事業をより円滑に推進するために、東京大学でのホヤの収集・保持を行ってはどうかとの意見が出された。これについて、東京大学で前向きに検討することになった。また、特に夏場にはホヤの供給が比較的困難になるので、それにどう対処するか、話合った。

(c)ユーザーを開発していくことの重要性が議論された。できるだけ多くの場を活用して、本事業内容を知らしめる必要があること、そのために9月5・6日に福岡で開催される日本動物学会でのNBRP展示にも積極的に参加すること、また、国外での機会、例えば8月末のパリでの世界動物会議で広報活動を行うこと、などが確認された。また、ニッポンウミシダについては、生態系（ベントス）における本種の重要性をアピールすべきとの意見が、星委員から出された。

(d)山崎委員から、データベースを積極的に活用することの要望が出された。これについては、できるだけ早急に、筑波大学のトランスジェニックシステムを初めとして、京都大学・東京大学でのリソースもデータベースを整備し積極的に活用することが確認された。

(e) 西駕委員から、提供されたホヤをより有効に利用するために、飼育の際の注意点などもデータベースに盛り込んでどうかという考えが出された。飼育のこつやちょっとしたノウハウなどもユーザーに理解できるように、この点を検討することとなった。

(f) MTAなど、提供の際の問題点について議論した。

2) その他

(a) 平成21年度からの拠点体制の変更について

平成20年度末の佐藤矩行中核機関拠点代表者の京都大学定年退職にあたり、筑波大学を中核拠点（代表者・稲葉一男）、京都大学・東京大学をサブ拠点とし事業を継続するむね、文科省に申し入れることになった。

文責： 野中 勝（運営委員長）